

学力調査の状況	
<p>国語では、「話すこと・聞くこと」の正答率が全国平均を上回っている。一方で、「漢字」や「言語」に関する問では、全国平均から20～30ポイント下回っている。</p> <p>算数では、「数と計算」の領域では、正答率が高く、意欲的に計算に取り組もうとする様子が見られる。一方、「図形」の領域では、正答率が全国平均に比べ10ポイント下回っている。</p> <p>学力調査のアンケートでは、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」と回答する児童が全国平均を8ポイント上回っており、学習意欲の向上が見られる。一方で、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答する児童は全国平均を10ポイント下回っており、話し合いや考えを深める活動を行っていく必要がある。</p>	

見えてきた課題	
<p>国語では、語彙力が足りず文章の理解ができなかったり、相手に伝える力が足りていない。短い文章を読ませたり、俳句や短歌のような様々な文章に触れさせたりすることが必要である。また、モジュール等の時間を活用し、漢字の学習の充実も図り、基礎的な学力の向上を目指す。</p> <p>算数では、計算の問題には意欲的に取り組み、自信のある児童も多いが、「図形」や「変化と関係」の領域での正答率が低くなっている。ICTを活用して実際に図形を動かしながら見たり、具体物に触れさせたりして理解を深めていく。また、生活経験に結びつけて考えさせることで学習を身近なものとして考えられるようにしていく。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	課題発見力・解決力や情報活用能力を伸ばす授業を展開する。
見通しをもたせる導入	考えたり、探求し続けたりすることができる課題を設定する。
振り返りの設定	児童の言葉で自己評価をさせ、自己の変容と達成感を感じさせる。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<p>○ICTを活用した話し合いを学習の中で行うことで学習を深めていくことができるようにする。</p> <p>○漢字の学習を中心に基礎基本の定着を目指していく。</p> <p>○モジュールの時間を使い、基礎学力の向上を行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用にむけて、手書き入力パッドを操作するため、正しい字形で書けるよう文字指導を行う。 ・特殊音節を正しく表記できるよう、繰り返し練習をする。 ・自分の考えを発表したり、簡単な文で表現したりする機会を多く設ける。 ・プリント直し、漢字小テストを行い、スモールステップで定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回のモジュールの時間を活用し、漢字の習得や言語に関する内容の習熟を図る。 ・ICT活用を推進するための、文字入力の基礎練習を、ローマ字学習と関連付けて行う。 ・他の人の考えと自分の考えを比較したり、まとめたりすることで、より考えを深められるように、文章にまとめたり、発表したりする機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外の文章や詩、短歌や俳句など、さまざまな言葉や文に触れる機会を増やし、語彙力を増やす。 ・短い文章を要約したり、文章に対する自分の考えを書いたりする学習時間を設定する。 ・週1回のモジュールの時間を活用し、授業で習得が不十分だった漢字や言語に関する復習を行う。 ・意見を交流する機会を増やし、共同的な学習を通して考えを深める。
社会科	<p>○どの学年も、資料集を効果的に使ったり、画像の提示や教科書の写真などから、情報を読み解いたり、調べたりする活動を年間を通して行う。また、各種の資料を効果的に活用し、社会的事象の意味などを解釈したり事象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがおやミニトマトなどを育てる活動を通して、植物の成長についての基礎的な知識や成長過程での気づきを体験的に学ばせる。 ・学校の環境や地域の自然環境のよさに気付かせるための地域の協力者と交流や地域の自然環境を活用する機会を継続してもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、資料を見やすくすることで興味・関心を引いたり、情報を読み取ることができるようにする。 ・比較する資料を用意し、比べたり、体験的な学習を取り入れることで情報や意義を読み取るようにする。 ・学習課題の設定と振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、画像や動画などの資料提示を行い、児童の気付きや理解につなげる。 ・複数の資料から情報を読み取る力を高めるため、全体で資料の特徴を捉えたり、資料を見る際の視点を提示したりする。 ・1単位時間で学んだことを、短い文章でまとめ、振り返る時間を設定する。
算数科	<p>○四則計算を中心に基礎基本の定着を目指していく。</p> <p>○少人数指導で習熟度授業を行い、同質集団のなかで、個人の考える力を伸ばすため、引き続き習熟度別少人数指導を継続していく。</p> <p>○ICT機器を随時活用し、視覚的に学習を補助。</p> <p>○基礎学力の根底となる四則計算力の向上は、モジュールの時間を使って行っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学習の定着を目指し、おはじきやブロックなどの具体物を用いて理解を深めさせる。 ・時間を有効活用して、空いている時間にcnavimaを取り組ませ個人の力を伸ばしていく。 ・ICT機器を活用し、教材提示などを工夫してや児童の考えを示す。 ・授業の導入と終末で計算プリントを行い計算力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考える力を伸ばすため、習熟度別少人数指導を行う。 ・ICT機器を活用し、デジタル教科書やグラフなどを掲示し視覚的に学習を補助。 ・基礎学力の徹底となる四則計算力の向上は、学校や家庭でnavimaを使い、教師・保護者が一丸となって習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュールの時間を効果的に活用し、前学年までの学習内容の定着を図る。 ・授業や家庭学習でcnavimaを使用し、基礎基本の定着を図る。 ・ICT機器を活用し、図形領域等で子供たちが視覚的にとらえられるようにする。 ・習熟度別の少人数指導を行うことで、児童の実態に応じた学習を行う環境を整える。
	<p>○実験器具を充実させ、実験や観察を多く取り入れられるようにする。</p>	<p>体験的な活動を基に、観察や地域探検を行い、気付きや上の</p>	<p>・二学期より実験器具を使う学習が増えるため、正しい器具の使</p>	<p>・主体的に探求できるよう課題を</p>

⑮授業改善推進プラン

理科	<p>観察を多く取り入れ、いろいろな方法で確認する。既習事項を全体で確認した上でそれらをもとに予想し、児童が主体的に問題解決に向けて取り組み、実感を伴った理解を図ることができるようにする。</p>	<p>数体俵を行い、スリッパで八の字の関わり重点をおいて取り組む。主体的に観察、探検を行い、中学年に向けての主体的な態度を育む。</p>	<p>が指さすため、正しい器具の使い方を学習する。また、児童が主体的に学習活動に取り組み、問題解決することができるよう予想・実験・結果・考察・振り返りを重視して実施する。</p>	<p>しつかり把握し、既習事項で生活経験とつなげながら予想できるようICTを活用しながら話し合い活動を充実させる。 ・実験器具や観察対象の材料を十分に準備し、観察実験の時間を多く取り入れ実感を伴った理解を図ることができるようにする。</p>
生活科	<p>○木育に関連した具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、地域及び自然との関わりで感心をもって活動に取り組ませる。 ○探究的な活動形態を繰り返し、児童一人一人が主体的に取り組むことができるように指導計画を立てる。</p>	<p>・遠足に行った際に炭焼小屋の説明をしていただくなど、地域と連携し、体験的な活動を通して児童が興味をもって取り組むことができるようにする。 ・分かったことや体験したことを絵日記や観察カードに綴り、そのとき感じた気持ちや様々な変化に気付くことができるように振り返りを行う。</p>		
音楽科	<p>○以前よりもさらに細分化したスモールステップで進めることにより、意欲の持続と基礎的な学習内容の定着を図る。友達と関わる場面を意図的に増やし、仲間意識を高められるよう、グループ活動を多く取り入れるようにし、ひとつの曲を力を合わせて作り上げる喜びを味わわせる。</p>	<p>・プロジェクターに1段や2段程度、学習する場所のみを大きく提示する。 ・全体練習をゆっくりと行い、繰り返し練習を重ねる。号車ごとの少人数の発表を行い、できたところを褒める。</p>	<p>・音楽室の前に合唱の曲を提示し、後側に合奏の楽譜を提示することで、今練習している場所をわかりやすくする。 ・全てのパートを、全員ができるように全体指導で時間をかけて指導をしていく。</p>	<p>・音楽室の前に合唱の曲を提示し、後側に合奏の楽譜を提示することで、今練習している場所をわかりやすくする。 ・パートリーダーをたて、友達同士の関わりの中で、お互いが高めあっている雰囲気大事にしていく。</p>
図工科	<p>○図工ノートを作成し、プリント学習やアイデアスケッチを行い、思考の過程と深まりが見えるようにする。 ○ICT機器の活用を積極的に行い、参考作品や制作方法を見せ、スモールステップで進めることにより、見通しをもって計画的に活動できるようにする。</p>	<p>・参考写真を見せたり、制作手順を大型モニターで提示したりすることによって、わかる授業を行う。 ・鑑賞会を行い、友人の作品の良い点を発表したり、自分の思いを発表する活動を行う。自分らしい表現を重視するとともに、他の作品の表現のよさを味わわせる。</p>	<p>・参考写真を見せたり、制作手順を大型モニターで提示したりすることによって、見通しをもって意欲的に制作に取り組めるようにする。 ・図工ノートを作成し、プリントやアイデアスケッチを行い、思考の深まりと過程が見えるようにする。 ・鑑賞会を行い、友人の作品の良い点をワークシートに書いたり、言葉で発表したりする活動を行うことで表現のよさを味わわせ</p>	<p>・「めあて」「課題」「手順」を板書し、一つ一つの意味やポイントを確認しながら、導入を行う。今日の授業で何を学ぶのか、見通しをもって活動させる。 ・図工ノートを作成し、プリントやアイデアスケッチを行い、思考の深まりと過程が見えるようにする。 ・対話的鑑賞教育を実践し、論理的思考やコミュニケーション能力を身に付けさせる。</p>
家庭科	<p>○作品作りでは、一人一人が到達目標をもって制作に取り組むことができるように、十分な時間を確保する。机間指導を通して、配慮が必要な児童への細かな対応を行う。 ○調理実習では、安全指導を徹底して行い、怪我や事故なく取り組ませる。身に付けた知識や体験したことを生かして実生活の場でも楽しく過ごし、より豊かな生活が送れるように指導する。</p>			<p>・作品作りや調理に関する学習では、児童の安全を第一に考え、道具の正しい使い方や作業手順について動画などの資料を活用して十分に理解させる。 ・日常生活の中から問題を見いだし、課題を設定させる。 ・調理実習に向けて、調理時間や味付けなどの計画を立てさせる。 ・調理後の振り返りでは、工夫したことや新たな課題などについて振り返り、次の調理に生かせるようにする。</p>
体育科	<p>○学習カードを活用し、毎時間のめあてをはっきりさせて運動に取り組ませる。また児童が習得すべき技能を明確にして指導を行い、個人差に応じた指導を行う。 ○健康・安全については、一層、自分の体調に目を向けさせ、児童が健康の保持増進に意識をもてるようにする。</p>	<p>・学習カードや学習ボードを活用し、毎時間のめあてをもって運動に取り組ませる。 ・カードに記入したり、あてはまる記号を選んだりして、学習の振り返りを行う。 ・運動遊びの前後における体や心の変化に注目させ、楽しく遊びのびと遊びに取り組めるようにする。</p>	<p>・学習カードを活用し、毎時間自身のめあてをもって運動に取り組ませたり、振り返り活動を行ったりする。 ・個々にあった活動練習場所を設置することで児童が自分で課題にあった練習に取り組めるようにしている。 ・主活動に応じた補助運動を行うことで、児童が意欲をもって運動ができるようにする。</p>	<p>・技の動きのポイントを明確にし、児童の手本を提示したり、動きを言語化したりしながら指導する。 ・児童が教え合いながら、多様な運動経験を積めるようにすると同時に、運動を楽しむ経験を積めるようにする。 ・具体的に適切なめあてをもち、児童同士の関わりを重視して活動を工夫し、技能や体力を高めるようにする。 ・児童一人一人に目標を設定させる。</p>
外国語	<p>○外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を</p>			<p>・友達やALTとのコミュニケーションを通して、外国語に慣れ親しむ意識を高める。 ・読むこと書くこととコミュニ</p>

⑮授業改善推進プラン

<p>外国語科</p>	<p>理解するとともに、読むこと書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>			<p>ケーションをつなげて学習し活用できる技術を身に付けるようにする。 ・単元の終末では、学習した表現を取り入れたプレゼンテーションを行うことで、理解を深めたり、技能を高めたりする。</p>
<p>総合的な学習の時間</p>	<p>○地域と協力して各学年で様々な体験活動を行うことで、自ら課題を発見し、自ら課題を解決する探究的な学習形態を経験させる。 ○活動や体験を通して、自分と身近な人々、地域及び自然との関わりに関心をもって活動に取り組ませる。 ○探究的な活動形態を繰り返し、児童一人一人が主体的に取り組むことができるように指導計画を立てる。</p>		<p>・地域と連携し体験的な活動を取り入れることで児童が興味をもって取り組むことができるようにする。 ・資料や最初の課題の提示を工夫し、疑問や知りたいことから新たな課題を設定し、解決できるように学習を組み立てる。 ・分かったことや体験したことがらを日常生活で活用したり、どのような場面で活用されているかを知ったりできるように振り返りを行う。</p>	<p>・学習を通して学んだこと、考えたことなどをICT機器を活用してまとめたり、複数で共有したりする時間を設定する。 ・地域の人材や施設の協力のもと、地域の特色を取り入れた体験的な学習を行うことで、児童が地域の一員としての自覚を高めたり、地域のために自分たちができていることを考えられるようにする。</p>
<p>特別の教科 道徳</p>	<p>○教科書を主たる教材として使用し、計画的な毎週の指導に協同的探求学習を取り入れながら引き続き取り組む。○道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を継続し、道徳的判断力を育成していく。</p>	<p>・教科書の題材から自身の生活場面に関連付けることによって自己の生き方について振り返る時間をもてるようにする。 ・個人での考えを周りと交流することで、他者との違いを知り、自己の考えを広げたり深めたりする場面を設定する。 ・授業で学んだことを振り返りながら、実際に自分ができることを考え、実践できるよう指導する。</p>	<p>・毎時間、道徳資料ごとの道徳的価値を明確にし、児童の感じ方、捉え方をもとにしながら、道徳的価値に気付かせていく。 ・ワークシートやICTを活用して、よりよい考え方、生き方について共有し、考えを広げたり深めたりできるように、振り返りの時間をとる。 ・毎日の生活の中で、道徳で学んだことが実践できるように指導していく。</p>	<p>・毎時間使用するワークシートは年間を通じて同一の形式とし、題材について考える時間と、自己の生き方について振り返る時間が分かるようにする。 ・個人での考えを小集団で交流することで他者の考えを知り、自己の考えを広げたり深めたりする場面を設定する。 ・道徳の授業で得た考えが日々の生活の中で実践できるよう、学級指導を継続する。</p>
<p>特別活動</p>	<p>○集団の一員としてより良い人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる活動として、学級における係活動、たてわり班活動、委員会活動、クラブ活動に取り組む。集会委員会を中心に児童集会を行っていく。また、すべての活動を通して自主的、実践的な態度を育てよう働きかけていく。</p>	<p>・一人一人がクラスに欠かせない存在であることを実感できるように当番活動を行う。 ・2年生は、係活動を通して、協力して計画したり、主体的に取り組んだりする態度を育てる。 ・より良いクラスを目指した話し合い活動を通して、集団の一員として良好な人間関係を築こうとする態度を育てる。</p>	<p>・係活動に力を入れ、児童が自主的な活動ができるようにサポートしていく。 ・ICTを活用し、活動の幅を広げることでより実践的な活動が行えるようにする。 ・上級生の委員会や縦割り班などの活動から、どんな活躍をしているかを知り、感謝の気持ちをもつとともに、上級生へ向けて活躍しようとする態度を育てる。</p>	<p>・委員会活動やクラブ活動、縦割り班活動を通して、高学年としての自覚と責任、仕事のやりがいを感じることができるよう、児童が主体的に計画・実行できる環境を整える。 ・学級の課題について、協力して達成したり、解決したりできるように、お互いを尊重し合いながら、自分の考えを明確にして話し合えるような活動を取り入れていく。</p>
<p>外国語活動</p>	<p>○HRT(学級担任)単独型指導のより一層の充実を目指し、研修等を通して担任個々の英語指導力の向上を図る。また、子供たちが楽しく積極的に学べるよう、ゲームやインタビュー等の活動をはじめ、ICTを用いながら視覚・聴覚に訴える授業づくりを行う。</p>		<p>・デジタル教材を活用し、発音や発声のしかたに慣れ親しむようにする。 ・アクティビティの活動を通して、友達同士でコミュニケーションを図れるようする。 ・高学年の外国語科に向け、ゲームやインタビュー等の活動から興味関心を惹き付け、積極的に学べるようにする。</p>	

⑮授業改善推進プラン

・算数では、16問中9.4問、都は、10.7問と正答数での違いは1問程度だが、平均正答率で比較すると、都より9ポイント低い結果となった。問題別にみると、図形の領域での正答率が5割を切り、不確かさが目立った。

国語では、都と比較すると全体的に正答率が低い。特に書くことの領域での正答率が低く、問題に不慣れな傾向がみられた。話す・聞くの領域では、都より20ポイント低い結果となり、苦手な傾向が見られた。思考力、判断力、表現力等の領域の中では、読むことが61.6%と一番よい結果となった。漢字を書くことでは正答率が比較的に高い。記述式の問題には、35.6%と不慣れな傾向が見られた。

とりあえず箇条書きしています。あとで文章化します。・語彙力が不足している。→文章を正しく読み取れない。→国語だけでなく、その他の学習でも内容の理解につながらない。・資料から情報を読み取る力が弱い、複数の資料を同時に見る力が弱い。・前学年までに学習した内容が積み重なっていない。(漢字、四則計算)